

「ひきこもりから回復」学ぶ

29日から宇都宮で講演会5回



丸山康彦さん

ひきこもりからの回復をテーマに、当事者の心情や周囲の関わり方、支援の現状を学ぶ講演会が今月29日～来年2月に全5回の予定で、宇都宮市

で開かれる。ひきこもる人の家族らでつくるNPO法人「KHJとちぎベリィ会」が主催する。初回の29日は「ひきこもりは進みつつ戻りつつス イッチバック方式で進む生きざま」がテーマで、講師は神奈川県で不登校を行う丸山康彦さん（ヒューマン・スタジオ代

表）。丸山さんはロングセラーの書籍「不登校・ひきこもりが終わるとき」（照林社）の著者で、ひきこもる人の心の内を掘り下げ、わかりやすく解説することで知られる。

第2回（8月24日）のテーマは「ひきこもりや生きづらさの背景に光を当てるSHIP!」が大切にされる当事者視点と家族のかかわり。一般社団法人SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク代表理事の上田理香さんが、ひきこもる人のための雑誌「SHIP!」の取り組みを報告する。第3回（10月26日）は「ひきこもりの長期化」本人の苦しさとの思い

とのズレ」がテーマで、講師はカウンセラーの高橋晋さん。第4回（12月21日）はひきこもり経験者で社会福祉士の深谷守貞さん、第5回（2月22日）はフリーライターの喜久井伸哉さんが講演する。

学習講演会はいずれもとちぎ福祉プラザ（宇都宮市若草1の10の6）で午後1時半から4時まで。受講料は各回、一般1500円（とちぎベリィ会の会員は1300円）で、ひきこもり当事者は無料。定員は50人。

問い合わせはとちぎベリィ会副理事長の阿久津久雄さん（090・3900・5643）へ。申し込みはファクス（0282・86・4437）かメール（aku@sky.ucty.ne.jp）、阿久津さんの携帯電話のショートメール（SMS）で。（高橋淳）